

Good Friday

グッド フライデー

知っておきたいキリスト教のことば (94)

受苦日 じゅくび

受苦日とは、復活日(イースター)の前の金曜日のことです。例えば2018年は復活日が4月1日(日)ですから、受苦日は3月30日(金)となります。

イエス様はエルサレムで逮捕され、裁判にかけられ死刑の判決を受けました。そしてゴルゴタの丘に登り、十字架につけられます。十字架上で息を引き取られたイエス様は、その三日後の「週の初めの日(日曜日)」に墓から復活されました。

ユダヤの日の数え方では、金曜日の三日後が日曜日となります。したがってこの「受苦日」は、イエス様が十字架につけられたことを記念する日なのです。

日本聖公会では「受苦日」と呼びますが、「聖金曜日」や「聖大金曜日」、「Good Friday」という言い方もされます。「受苦」という言葉と、英語の「Good」とは随分違うように思いますが、イエス様の十字架がわたしたちにとっては「善い」ものになったのだということを考えさせられます。

この日には、特別な礼拝や祈りのときをもつ教会が多くあります。例えばマルコ福音書の記述にあわせて、イエス様が十字架で苦しまれた昼の12時から15時まで礼拝をする教会があります。また、イエス様が十字架上で発せられた七つの聖語に耳を傾け、黙想の時を持つ教会もあります。

また、イエス様の苦しみを思い起こしながら、断食をするという方もおられます。

京都教区の中にある京都伝道区では、聖アグネス教会で「受苦日礼拝」を一緒にささげています。12時からの礼拝になりますので、お近くの方はぜひお越しください。

次回は「受難」です。お楽しみに。



「死せるキリスト」

アンドレア・マンテーニャ

(1431~1506年)

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

(マルコによる福音書 15章 34節)

